

原子力平和利用と核不拡散にかかわる国際フォーラムの開催について(案)

平成 23 年 8 月 23 日
核物質管理科学技術推進部

1. 開催趣旨・概要

日本原子力研究開発機構は、核不拡散政策に関する一般社会への理解促進と国際貢献を目的として、毎年原子力平和利用と核不拡散にかかわる国際フォーラムを開催し、その時々今日の今日的な課題に焦点を当てた講演やパネルディスカッションを行い、原子力平和利用と核不拡散の両立に係る種々の課題や方策について国内外の理解を深めるとともに、我が国及び原子力機構の核不拡散への取り組みを紹介している。

現在の核不拡散と原子力平和利用を巡る課題のひとつとして、2010年4月ワシントンで開催された核セキュリティサミットでは、核物質や原子力施設の管理体制の強化や、今後4年以内の国際的管理体制の確立等を内容とするコミュニケ及び作業計画が採択されたところであり、核セキュリティに係る各国の対応について議論することは有益である。また、福島第一原子力発電所事故に起因する日本における原子力安全の確保と、原子力事故時の核セキュリティ及び核不拡散対策の強化、つまり3S（原子力安全、核セキュリティ、核不拡散/保障措置）対策について、今後の日本の具体的アクションには世界が注目している。

以上の状況を踏まえ、平成23年度は、「3S（原子力安全、核セキュリティ、核不拡散/保障措置）に係る国際フォーラム-福島原子力事故の教訓をソウル核セキュリティサミットでの議論につなげるために-」と題して国際フォーラムを開催し、福島原発事故を契機に、米国等より示された原子力発電所の核テロに対する核セキュリティ強化などについて議論した後、継続的で健全な原子力の平和利用の発展を実現する観点から、3Sのそれぞれの重要性や総合的アプローチについて議論し、2012年の韓国ソウルにおける核セキュリティサミットに繋げることを目指す。

2. 実施概要

- (1) 実施時期：平成23年 12月8日（木）、9日（金）午前（1日半程度）
- (2) 開催場所：ベルサール飯田橋ファースト（文京区後楽2-6-1）
- (3) 機構内連携：核物質管理科学技術推進部、核不拡散・核セキュリティ総合支援センター

3. プログラム（案）

- (1) 冒頭挨拶及び基調講演（8日：10:00～12:30）

1) 冒頭挨拶 鈴木篤之 日本原子力研究開発機構理事長

2) 基調講演

「(仮題) 福島原子力事故復旧の現状」

○第1候補 国会議員

○第2候補 政府関係者

○第3候補 学会関係者

3) 基調講演

「(仮題) 福島原子力事故の評価と教訓」:

OIAEA 原子力安全・セキュリティ局 (もしくは核セキュリティ関係組織)

コーヒープレーク

4) 特別講演

「(仮題) 米国における原子力施設の安全・核セキュリティ対策」

○米国原子力規制委員会 (NRC)

5) 特別講演

「(仮題) 欧州における原子力施設の安全・核セキュリティ対策」

○欧州委員会/共同研究センター (EU/JRC)

6) 特別講演

「(仮題) ソウル核セキュリティサミットの展望」

○韓国政府関係者

(2) パネル討論1 (8日: 14:00~17:00 コーヒープレーク (30分) を含む)

1) テーマ: 「原子力施設における核セキュリティ」

2) 議長、パネリスト (8名): IAEA、米国 NRC、EU、韓国、日本等

3) 論点及び議論の進め方:

- ・ 福島原発事故で露呈した原子力施設の核セキュリティ上の懸念
 - ü 核セキュリティの観点からの福島原発事故の教訓と課題
 - ü 核セキュリティ対策を強化する必要がある施設や機器
 - ü 外部脅威と内部脅威への対策
- ・ 原子力施設の核セキュリティ対策のあり方
 - ü 重大事故を引き起こす可能性のある核セキュリティ上のリスク評価

- 想定される妨害破壊行為への対策、体制（対策の実施者/責任者）
- 過酷事故時又は緊急時における安全と核セキュリティの双方を満足させる対策
- 設計基礎脅威(想定)を超える脅威（Beyond Design Based Threat、例えばミサイルで原子炉を攻撃するなどスタンドオフ攻撃）への対応における国と事業者の責任と役割
- ・ 核セキュリティ対策のスタンダードとしての IAEA 基本文書・勧告文書の内容と原子力事故時の核セキュリティ対策への応用(福島原発事故に相当する妨害破壊行為への対応は十分考慮されているか)

レセプション（17:30～19:00）：岡田理事挨拶

（3）パネル討論2（9日：9:30～12:00）

- 1) テーマ：「原子力安全・核不拡散・核セキュリティ対策の総合的アプローチ」
- 2) 議長、パネリスト（8名）：韓国、日本、WINS、米国核不拡散・核セキュリティ関係シンクタンク、カザフスタン、インドネシア等
- 3) 論点及び議論の進め方：
 - ・ 2010年4月の核セキュリティサミットの論点と結果レビューとその後の各国の取り組み
 - ・ WINSが提唱する Safety と Security（2S）を考慮した総合的アプローチ
 - ・ 上記2S 総合的アプローチに、核不拡散（保障措置や計量管理も含む）を加えた3S（Safety, Safeguards（Nonproliferation）, Security）について、2つのS、あるいは3つS相互の係わり(インターフェース)、期待されるシナジー効果について。各々の解決策が効果的に機能するような「3Sに対する総合的アプローチ」の可能性
 - ・ 新興国における原子力導入における3S対策の国際的共有化と3Sを考慮した原子力施設の合理的な設計（3S by Design）の必要性
 - ・ 2012年ソウル核セキュリティサミットに向けたメッセージ

（4）閉会挨拶

以上